

1 指導目標

部活動は生徒が自ら興味を示し、その時間を確保し、努力しようと意欲を示したものである。部活動を通して集団生活することは、現代の希薄になりつつある人間関係のうえからも、人間的な成長のためには大切な分野であることを理解しなければならない。この生徒たちの気持ちを大切にし、教師は生徒がその気持ちを持ち続け、かつ年齢に応じて高まるよう指導し、勝利主義に走ったり、優れた生徒のみを対象としたり、学校生活のリズムを狂わす活動をしてはいけない。

日々の学習活動で充実感を得られない生徒が多く存在する現在のなかで、生徒の心の中で部活動で心の安定を図ろうとする生徒は少なくはない。すなわち部活動では興味を持っていることをとことんやり自信を持たせてあげ「一生懸命やれば必ず良いことある」ということを味わわせ

2 活動日・活動時間

火、水、木、金（4：00～6：00）、土、日

3 活動内容・留意点

① 礼儀の指導

礼儀、生活態度を徹底的に指導することにより、周りからも認められたただそれだけで、充実感をもつことができ、意欲がわく。

② 努力のすばらしさを教える。

部活動においては、能力の高い先輩たちをほめるのではなく、能力は高くないが、ひたむきに努力を続け、成長している生徒を紹介し、努力のすばらしさを教える。

③ 心から叱り、心からほめる。

生徒の能力に対して、目標が達成できていない場合は心から叱り、努力して目標を達成したときは心からほめる。

④ どこかに可能性があると思わせる。

一個人をすべての能力の高さで判断するのではなく、どんな生徒に対しても各自の良さを認め、希望を持たせる。その可能性のある事柄に対して能力に応じて努力させる。

⑤ の生徒自身の伸びを確認、比較する。

他の生徒と比較するのではなく、その生徒自身の伸びを必ず数字で示し比較させ、努力の結果を認めてやる。そのためには、数字に表せるトレーニングデータをそろえておかねばならない。そして、そのデータと練習メニューの相関を生徒に的確に示し、今後の目標をも持たせる。またその目標が何時のものか、また忘れないためにもその都度書かせ、意識づけを図る。

⑥ 生徒の信頼を得る。

教師がまず学び、努力する姿勢を示せば、生徒は必ず、教師についてくるものである。信頼関係は生徒の成長につながり、伸びが理解できれば意欲がわく。教師の努力によりよい結果が得られる見込みがなければ意欲などわくわけがない。

4 長期休業中の活動および指導上の留意点

体調管理を整え、全力で行わせる。